

大学院修了にあたって

大学院修了にあたって

顎顔面口腔外科学分野 上 松 晃 也

新潟大学に入学してからもう十年程になります。これまでを振り返って少し思うところを書かせていただきたいと思います。

愛媛県出身ということもあり、私自身が新潟大学歯学部存在を知ったのはセンター試験が終わってからでした。深く考えることなく受験したのですが今思うと良かったのかもしれない。広島や岡山にも大学があるため、なぜ新潟まで来たのか面接で聞かれたのを未だに覚えています。(実は新潟大学だけ面接だけでよいということで受験したのですが流石にそう答えることはしなかったと思います。)

強い動機があるわけでもなかったためか、学生時代の思い出はいつもギリギリで試験を受けていた記憶しかありません。しかし、幸運にも同級生や硬式庭球部の友人のおかげでかろうじて留年もせず、充実した学生生活を満喫できました。勉強はあまり熱心でなかった反動か、部活に関してはかなり入れ込んだ方だと思います。魅力的な先輩や気の合う後輩とも出会え、本当に一生の宝物です。最近は入学者の減少にともなって部活に入る人も減ってきているようですが、それは残念なことです。確かに国家試験の難化などもあり、まずは勉強しなければという高尚な考え方もあるでしょう。しかし、過去の実績をみても新潟大学歯学部のカリキュラムをこなし、卒業できるほどの人であれば国家試験に対してさほど対策などしなくても対応できると思います。というわけでまだ部活動に二の足を踏んでいる方は今からでも始めてみてはどうでしょうか？(ひどい成績にもかかわらず進級させていただいた先生方、本当にありがとうございました。)

学部を卒業してからは口腔外科を専攻すること

にしました。口腔外科は虫歯や歯周病の他に腫瘍性の病変や顎関節疾患など様々な病気を診る機会がありこれが大学院進学した理由の一つかと思います。入局して4年程になりますが、わからないことだらけであり、未だに教科書を手放せない状態です。実際に臨床に出て患者様と接するようになると表面上の知識だけでなく、患者様の背景にあるストーリーなども加味して治療を行うことの重要さも感じるようになりました。これからも歯科医師として診療を続けていく中で先輩となる先生方や患者様から多くを学ばせていただき、日々成長したいと思っています。

研究も大学院に進学し初めて行うことになりました。最初はさほど興味はなかったのですが、日々の生活が研究よりにシフトするにつれて興味を持つようになってきました。学生の時と比べて好きなことだけを勉強できるのはかなり大きいと感じます。(苦手な科目は積極的にやらないのは高校時代からの悪い習慣かもしれません。)研究も始めて3年経過しますが思うような成果は未だ上げられずといったところでしょうか。

今この十年を振り返って、入学当初には思いもよらなかったことをたくさん経験できたことに気づきました。なんとかやってこられたのも、大半は周囲の友人・先生に恵まれたことが大きな要因だとはつきり実感できます。人付き合いは苦手な方ですが、これからも人との出会いや縁を大切にしていきたいと感じます。



大学院修了に当たり

生体歯科補綴学分野 高野 遼平



4年間という限られた大学院生活を通して自分がどのように成長したかを考えることは非常に大切であると感じます。研究も臨床も勉強したいと考えていた私は補綴に興味があったことから、生体歯科補綴学分野の大学院生を選択しました。その4年間で、「咬合時にインプラント周囲骨に生じる応力と骨改造の関連性を検索する」という研究テーマに取り組みました。具体的には、咬合力を負荷した際の3次元有限要素法（以下3D-FEM）による応力解析結果（骨のどこに応力が集中しているか）と実際に生じる骨改造の組織学的所見（骨吸収が生じる部位や破骨細胞の観察）の相関性検索を行いました。3D-FEMと組織学的観察の両者を勉強する必要がありましたが、多くの先生方の支えのおかげで無事に論文作成まで至ることができました。

当分野は毎週月曜日にジャーナルクラブ（いわゆる抄読会）を行っており、自分の研究テーマに関する論文の紹介や自分の研究の進行状況を英語にて発表しています。また、現在は行っていませんが、毎週水曜日にインプラントの英語の教科書を用いた勉強会があり、各担当者が英語にて発表する勉強会も行っていました。分野の人数が少ないために高頻度で担当することができたおかげもあり、多少は論文の読み方や発表が上達したと思います。さらに、実際に学位論文を書く際には、上記の勉強会のために読んだ論文や準備した資料が非常に役に立ちました。積み重ねてきたものが最終的にまとまっていく過程で抄読会の有用性を感じることができました。

また、海外での学会発表や研修に行く機会を多く与えてもらったことより、異文化に触れる機会や多くの人との交流を通して、視野を広げることができたと思います。魚島先生に案内して頂き、アメリカのノースカロライナ大学の研究室や補綴

の専門診療室を見学できたことや現地の大学院生と接することができたことは非常に良い経験でした。大学院の早期にモチベーションの高い学生や先生方と接することで自分も大学院生および歯科医師としてしっかり取り組まなくてはと自覚することができました。

指導医の口クサーナ先生とは、週に1度は研究の打ち合わせを行ってもらい、研究計画の立案方法や論文の読み方など多くのことを指導してもらいました。数年前には軽い気持ちで英語ができるようになりたいと言ったら、それ以来メールでの連絡は全て英語になりました。当初は内容を理解するのに苦労しましたが、最初に比べると少しは英語の文章を書く能力も向上したように感じます。また、妥協をしない先生の仕事に対する姿勢は現在の私に多大な影響を与えてくれました。

最後になりましたが、魚島先生をはじめとする多くの先生方の支えがあり、充実した大学院生活を送れたことを心より深く感謝しております。大学院卒業後は指導して頂いたことを様々な面にて生かすべく精進したいと思います。今後ともよろしく申し上げます。

大学院修了にあたり

口腔生命福祉学 米澤 大輔

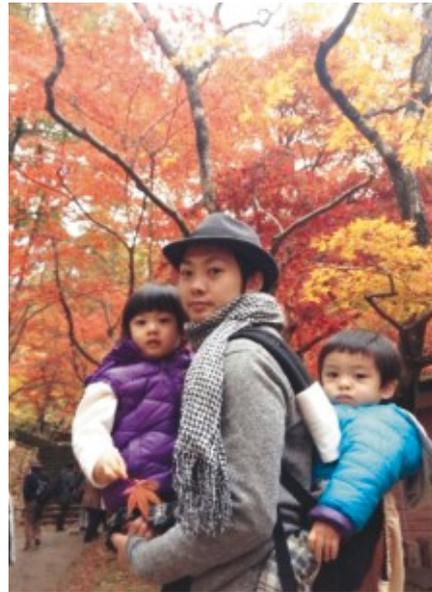
口腔生命福祉学専攻博士課程後期3年の米澤です。学科を卒業し、大学院に進学してから、博士課程前期で2年、後期で3年、すでに大学院生活も5年目となりました。この5年間を振り返ると、本当に様々なことを経験できた素晴らしい期間だったと思います。

まず、前期課程の2年間では、「研究とは一体どんなことをするのだろうか？」という状態で、まったく何も分からないところからスタートし、歯周科の山崎研究室での研究を希望させていただき、受け入れていただくことが出来ました。山崎研究室の先生方は、本当に何も分からない私に研究の初歩の初歩から丁寧に指導して下さいました。2年間という短い期間で、あっという間に終わってしまったというのが実感ですが、その短い時間の

中で、実際に研究に携わることが出来、結果が出てくることには感動を覚えました。また、人生初の学会での発表など、非常に濃密な時間を過ごすことが出来ました。

後期課程では、社会人大学院生として進学させていただきました。初の社会人としての就職先は、新潟県福祉保健部です。大学院とは、直接的には関係ないのですが、1年目には児童養護施設、2年目からは障害者支援施設での勤務を経験しました。そのような環境の中、後期課程での研究テーマについて、非常に悩みましたが、口腔生命福祉学専攻という独特な学問分野の性質上、歯科分野に偏って研究するだけではなく、福祉分野の研究もしてみたい。という気持ちから、研究テーマを、障害福祉の分野に決めました。前期課程では、基礎研究を行いました。後期では真逆の定性的研究に取り組みました。前期課程の2年間で、必死に研究の初歩から学びましたが、後期課程で行った定性的研究は、まったく異なる研究で、また一から学ぶ所から始まりました。社会人大学院生という立場上、思うように時間が取れず、苦しい思いをすることも多かったです。福祉の分野について学ぶことが出来たのは、今後の自分の将来のためにも、大きな糧になるのではないかと思います。

簡単な説明でしたが、私の大学院生活の5年間は、本当に様々なことを学ぶ機会になりました。また、まだまだ分からないことだらけで、これからも様々なことを学んでいきたいと思える5年間



でもありました。口腔生命福祉学専攻は私で1期生になります。つまり、まだまだ始まったばかりです。これを読んでくれている口腔生命福祉学科の学生の方には、ぜひ大学院に進学することをお勧めします。大学生活の4年間では学べないことや、分からなかったことが大学院では学ぶことが出来ます。歯科から福祉まで非常に広い範囲の中、自分の興味のある分野で研究を行うことが出来る自由な所も魅力です。大学院での経験は必ず就職する上でも役立つことだと思えます。

大学院修了にあたり、改めて、この5年間でお世話になった（ご迷惑をおかけした）山崎教授をはじめ、山崎研究室の先生方、福祉学講座の島田准教授（現在中央福祉相談センター相談判定課長）、高橋教授に心より御礼申し上げます。

平成24年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名(専攻)	博士論文名
博士(歯学)	MD.AL-AMIN BHUIYAN (口腔生命科学)	Osteogenic Induction Ability of Histone Deacetylase Inhibitors on Periosteum Derived Cells (骨膜由来細胞に対するヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の骨芽細胞分化誘導能に関する研究)
博士(歯学)	SULTANA SARA (口腔生命科学)	Molecular characterization of tissue-nonspecific alkaline phosphatase with a replacement of asparagine at position 417 with serine associated with severe hypophosphatasia (重症低フォスファターゼ症に関連した組織非特異型アルカリフォスファターゼの417番目のアスパラギンがセリンに置換した変異酵素の分子解析)
博士(歯学)	伊藤 彰 (口腔生命科学)	咀嚼時の米菓の物性変化と硬さ官能評価の関連
博士(歯学)	山中 裕介 (口腔生命科学)	Expression of Angiogenic Factors in Rat Periapical Lesions (ラット根尖性歯周炎における血管新生因子の発現)
博士(歯学)	高辻 華子 (口腔生命科学)	Induction of the Swallowing Reflex by Electrical Stimulation of the Posterior Oropharyngeal Region in Awake Humans (ヒト咽頭粘膜電気刺激による嚥下誘発)
博士(歯学)	林 悠子 (口腔生命科学)	Relationship between Autoantibody Associated with Rheumatoid Arthritis and Tooth Loss (関節リウマチに関わる自己抗体と歯の喪失との関連)
博士(歯学)	高野 遼平 (口腔生命科学)	Correlation of Stress Distribution and Morphological Changes of the Bone Surrounding Occlusally Loaded Implants in Rats. (ラット咬合荷重下インプラント周囲骨の応力分布と形態学的変化の関連性)
博士(歯学)	上松 晃也 (口腔生命科学)	Application of stem cell media to the preparation of human periosteal sheets; Safe and efficient method for preparation of osteogenic grafting material (歯槽骨再生療法に用いる培養骨膜シートの質的向上を目的とした培地の最適化)
博士(歯学)	勝見 祐二 (口腔生命科学)	Variation in arterial supply to the floor of the mouth and assessment of relative hemorrhage risk in implant surgery (インプラント手術時における口底部出血の危険因子としての動脈の走行に関して)
博士(歯学)	齋藤 太郎 (口腔生命科学)	Zoledronic acid impairs re-epithelialization through down-regulation of $\alpha V\beta 6$ integrin and TGF-beta signaling in a 3D in vitro wound healing model (3次元インビトロ口腔粘膜モデルにおいてゾレドロン酸は integrin $\alpha V\beta 6$ の発現および TGF β シグナリングを抑制し再上皮化を障害する)
博士(歯学)	石田 光平 (口腔生命科学)	Interleukin-6 Gene Promoter Methylation in Rheumatoid Arthritis and Chronic Periodontitis (関節リウマチおよび慢性歯周炎における IL-6 遺伝子プロモーター領域のメチル化について)
博士(歯学)	白井 義英 (口腔生命科学)	The comparative effectiveness of granules or blocks of superporous hydroxyapatite for the treatment of intrabony periodontal defects (超高気孔率ハイドロキシアパタイトの顆粒またはブロック体が歯周骨内欠損に及ぼす臨床効果)
博士(歯学)	中島 悠 (口腔生命科学)	Bioactivity of freeze-dried platelet-rich plasma in an adsorbed form on a biodegradable polymer material (凍結乾燥多血小板血漿を付着させた生分解性ポリマーの生物学的活性)
博士(歯学)	藤岡 陽介 (口腔生命科学)	歯周炎患者の歯周病原最近および口臭に対するブラッシング、フロッシング、リンスング併用清掃の効果

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	宮内 小百合 （口腔生命科学）	Oral infection with <i>Porphyromonas gingivalis</i> and systemic cytokine profile in C57BL/6. KOR-ApoE ^{shl} mice （C57BL/6 . KOR-ApoEshl マウスにおける <i>Porphyromonas gingivalis</i> 口腔感染による血清中サイトカインプロファイルの変化）
博士（歯学）	山田 亜紀 （口腔生命科学）	Effects of chewing and swallowing behavior on jaw opening reflex responses in freely feeding rabbits （自由行動下ウサギの咀嚼嚥下運動時における開口反射の変調）
博士（歯学）	山本 真也 （口腔生命科学）	How do tablet conditions influence swallowing in healthy humans? （錠剤の提供条件の違いが嚥下機能に与える影響）
博士（歯学）	常木 雅之 （口腔生命科学）	Regulation of histopathological tissue architectures by the crosstalk between parenchymal cells and extracellular matrix in oral tumors and cysts （口腔腫瘍・嚢胞における実質細胞・細胞外基質間クロストークによる病理組織構築制御機構）
博士（歯学）	伊藤 恭輔 （口腔生命科学）	Effects of low-energy electron beam irradiation on flexural properties of self-curing acrylic resin （低エネルギー電子線照射が常温重合型アクリルレジン of の曲げ特性に与える効果）
博士（歯学）	牧田 早織 （口腔生命科学）	A dimerization defect caused by a glycine substitution at position 420 by serine in tissue-nonspecific alkaline phosphatase associated with perinatal hypophosphatasia （重症低フォスファターゼ症に関連した組織非特異型アルカリフォスファターゼの420番目のセリンがグリシンに置換したことにより起こった二量体化の欠陥）
博士（歯学）	上杉 崇史 （口腔生命科学）	Effects of orthognathic surgery on pharyngeal airway and respiratory function during sleep in patients with mandibular prognathism （下顎前突症患者における顎矯正手術が咽頭気道形態と睡眠時の呼吸機能に及ぼす影響）
博士（歯学）	坂上 直子 （口腔生命科学）	A histological study of deformation of the mandibular condyle caused by distraction in a rat model （ラット下顎骨延長による下顎頭変形の組織学的検索）
博士（歯学）	竹内 玄太郎 （口腔生命科学）	Changes in maximum lip closing force following orthognathic surgery in patients with jaw deformities （顎矯正手術に伴う顎変形症患者の最大口唇閉鎖力の変化）
博士（歯学）	齋藤 浩太郎 （口腔生命科学）	The Expression of GM-CSF and Osteopontin in Immunocompetent Cells Precedes the Odontoblast Differentiation Following Allogenic Tooth Transplantation in Mice （マウス臼歯他家移植後の免疫細胞による GM-CSF およびオステオポンチンの発現は象牙芽細胞の分化に先立つ）

平成24年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻論文博士取得者

博士の専攻

分野の名称 氏名(専攻) 博士論文名

博士(歯学)	新 國 農 (口腔生命科学)	Clinical significance of T2 mapping MRI for the evaluation of masseter muscle pain in patients with temporomandibular joint disorders (顎関節症の咬筋痛の評価における T2 マッピング MRI の臨床的有用性)
--------	-------------------	---

平成24年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期・後期課程修了者論文名

専攻分野の名称 氏名(専攻) 論文名

修士 (口腔保健福祉学)	岸 本 奈 月 (口腔生命福祉学)	経口摂取が口腔内水分量と唾液および舌苔中の微生物量に与える影響
修士 (口腔保健福祉学)	手 嶋 謡 子 (口腔生命福祉学)	口唇口蓋裂児における乳歯う蝕有病状況の評価
修士 (口腔保健福祉学)	木 村 有 子 (口腔生命福祉学)	大学病院における新人歯科衛生士のリアリティショックと成長過程—悩み・問題意識の変遷に関する質的研究—
修士 (口腔保健福祉学)	柴 田 由 美 (口腔生命福祉学)	歯科衛生士介入による病棟看護師の口腔ケアに対する認識変化
博士 (口腔保健福祉学)	米 澤 大 輔 (口腔生命福祉学)	障害者の地域生活支援における24時間相談支援サービスに関する研究—インタビュー調査による定性的データの分析をとおして—
博士(学術)	小 林 晃 (口腔生命福祉学)	障害(児)者入所福祉施設における歯科保健活動状況に関する全国調査

